

令和 4 年 1 月 23 日  
新型コロナウイルス感染症対策専門員会議

## 広島県の新型コロナウイルス感染症の状況にかかる評価と提言

### 【感染状況】

- 県内の感染者数は、過去に類を見ない勢いで急激に拡大し、県全体の直近 1 週間の新規報告者数（人口 10 万対）は、1 月 22 日時点で 315.8 人となっており、今次の第 6 波は未だピークが見えない状況にある。
- 県内のゲノム解析結果では、1 月の初旬にデルタ株からオミクロン株へ急速に置き換わったと推測され、感染力の強さから全県で市中感染が一気に拡大したと考えられる。
- 年代別では、30 代以下が 6 割を占めるが、10 代以下の若年層や 60 代以上の高齢者の割合も徐々に増加している。当初、飲食の場が感染経路と推定されるものが 5 割近くを占めていたが、直近ではその割合は低下している一方、学校や医療機関・高齢者施設での感染割合が増加しており、これら以外も含め様々な場面での感染が起きている。また、感染経路不明割合の高まりは、ここ数日、減少傾向にあるものの、第 5 波と比べてやや高い水準にある。
- 現時点では、中等症者と重症者の割合は、第 5 波以前と比べて低く、軽症・無症状患者が 9 割以上を占める。主な症状としては、発熱、咽頭痛及び咳といった上気道症状が早期から発現する症例が多く見られる。
- 他方、感染拡大に伴い、医療機関や社会福祉施設、介護事業所でのクラスターが頻発しており、今回の波で 25 件発生している。クラスター 1 件当たりの感染者数もこれまでの波と比較して多い傾向で、最大で 60 名発生している事例もある。ひとたび施設内でクラスターが発生した場合は、感染の拡大を抑えることが困難なケースが多くなっており、発熱等の軽症者については、施設内での療養となっている。
- また、自宅療養者は 12,000 人を超えて推移している。このまま感染拡大が続き、高齢者への感染がさらに拡大すれば、中等症者や重症者が増大し、医療提供体制のひっ迫に繋がる。

### 【レベル分類】

- 県内はオミクロン株の市中感染により、感染者数はこれまでで最大であり、増加の伸びは鈍化傾向にあるものの依然として増加し続けており、感染拡大が継続している状態にある。

- 医療提供体制は、1月22時点の確保病床使用割合は39.1%と50%を切っているものの、入院患者数は日を迫うごとに増えている。今回の波は前回までと比べて中等症、重症患者の割合が相当程度低いこともあり、現状においては対応できている。
- 一方、医療従事者が感染者又は濃厚接触者となり、欠勤となるケースも増えている。救急搬送の受け入れ先が決まらず、搬送時間が長くなるケースも増えている。通常医療への影響も出始めていることから、感染レベルは「レベル2」ではあるものの、「レベル3」にかなり近づいていると認識する必要がある。

#### 【今後の対応について】

- オミクロン株の感染力を踏まえると、ピーク値を下げ、感染者数を抑えながら、医療提供体制を維持し、ワクチン接種を進めていくことが必要と考える。
- 感染経路判明例における飲食を起因とする割合は減り、感染拡大防止に寄与していることから、感染者数がピークアウトしていない現状においては、飲食店に対する時短要請等といった現状の対策を緩和する状況にはないと考える。
- 今後、さらなる感染拡大が継続すれば、通常の医療や救急医療、介護体制といった社会機能の維持にも大きく影響することから、こうした施設における感染症対策を改めて徹底するなど感染管理レベルを引き上げ、感染者の早期探知と保健所と連携した医療福祉クラスター対応班による早期介入を継続していく必要がある。
- また、今回の波で最も重要なことは、大量に発生する自宅療養者の医療提供体制である。オミクロン株は、感染力が強い一方で、軽症・無症状者が9割以上を占めること並びに症状が早期に発現することから、症状を認めたら直ぐに医療機関を受診し、診察・検査・必要な投薬も受け、自宅療養等を行うことが最も有効な歯止めとなり得る。
- 感染者が急激に増加する時期の保健所の業務については、重症化する患者を見逃さず、適切に医療に繋げる体制へシフトすることが重要となる。そのため、重症化リスク因子を有する者や医療機関、高齢者施設等のクラスターの対応に重点化を図り、健康観察業務等はできる限り委託するなど、業務の分散化をより進める必要がある。これらの健康観察の変更については県民が不安にならないような体制整備と情報提供を行うことも必要である。
- 第6波を乗り越えるためには、中等症・重症患者の病床を確保し、重症化リスク因子を有する者を保健所等で積極的に健康観察するとともに、圧倒的に多くなる軽症者・自宅療養者への初期診療、オンライン診療センターの活用を含めた再診体制及び薬の配送体制を拡充・強化することが極めて重要であり、すべての医療関係者の協力を得ながらその体制を構築していくことが必要である。

- さらに、自宅療養が基本となれば、県民一人ひとりがこれまで以上に自分の問題として意識することが最も効果的な対策となる。オミクロン株であっても、感染経路はこれまでの株と変わらないことから、マスクの着用、手洗いと消毒、換気等基本的な感染防止対策の徹底を粘り強く県民に呼びかけていくことが重要である。